

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園番号	1198424
園名	学校法人聖心学園 サンタ・セシリア幼稚園

年少・年中の報告

1. 活動のテーマ

<テーマ>

土と砂と水

<テーマの設定理由>

泥んこ遊びが大好きな子ども達。園庭の築山に新しい土がたくさん入り土と水の関係、更に、土に似ている砂はどうなのか？子ども達が興味を持っている。雨が降った次の日に、やわらかい土と、叩いても割れない硬い土があることを知り、疑問を持っていた。それぞれの土は、色も感触も違っており、変化を調べたい。

2. 活動スケジュール

夏に築山（泥場）がリニューアルしたので、そこで遊んで土と砂の感触の違いを感じる。

近くにある水道から水を土にかけて乾いたときとの変化に気づく。

新しい築山でどのように遊ぶか3歳児、4歳児、5歳児なりに考える。

土は場所によって違い、天気や季節によっても変化することに気づく。

泥をさわり、泥遊びをして、疑問を持つ。

また、それについて、子どもなりの方法で観察し、調べる。

秋口と寒い冬との土の違い、そこにある水の変化に気づく。

冬でも氷ができていない日と、できない日があることに気づく。

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり 等を記載ください。

築山（泥場）づくり、水道の新設、タブレット、砂場のおもちゃ（以前からついていたもの）

土の感触、手触り、日によって土の見目の違い等子どもからいろいろな感想が出ました。



・ 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

土遊びは以前から好きな子ども達であったが、築山に新しく土を盛り、また、水道ができて水を土にかけて土の感触が違うことに興味を持ちました。泥団子も、土の質によって出来方が違うことを子どもが気付きました。

冬の日々でも、特に寒い日は水が凍り、寒いと感じても凍らない日もあることに気付きました。

土は水だけでなく、太陽の当たり方によっても日々違ってくることに子どもなりに気づくことができた。

朝バケツの水が凍っているのを見つけて喜んでいたが、氷ができない日もありその日の気温の違いに気づいた子もいた。

霜柱は思うように観察できなかった。

年長の報告

1. 活動のテーマ

<テーマ>

土の硬さと水の関係

<テーマの設定理由>

子どもたちは元々泥んこ遊びが大好きで遊びながら次々と疑問を持つ。
泥んこ遊びと砂遊びをして、手触り、水との混ざり方に気づき、いろいろな疑問を持って子どもなりに考える力を身につけさせたい。
自然豊かな園庭で落ち葉、木の実、虫で遊ぶのが大好きな子ども達は、疑問に思ったことを保育者に聞いてくる。年長児なので、その疑問をさらに掘り下げ、自分で調べられるものは調べ、更に、自然へ目を向けられるように考えた。そして、クラス内で友達に発表する力も養いたいと思った。

2. 活動スケジュール

新しくできた築山で遊ぶ。遊ぶことで土と砂の感触の違いに気づく。
更に、水を加えたらどうなるかに目を向ける。
疑問に思ったことをタブレットで調べてみる。

タブレットで調べる楽しさを知り、園庭の木の実、落ち葉、虫についても疑問に思ったことを何でも調べてみる。
調べたものをクラスで発表しあう。

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり 等を記載ください。

築山（泥場）、 水道、 タブレット

幼稚園の泥場に新しくたくさん土が入って、楽しく遊べそう→なんか今までの土とは感触が違う→水をかけるとべたべたするね。→夏休みに海や山で遊んだ時の土や砂とは感触が違う→しらべてみようよ

調べるといろいろなことが分かって面白いね→もっといろいろなことを調べてみようよ



4. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・日常のタブレット

子どもにとって身近な便利なツール道具としてある為、すぐに「調べてみて」から「調べてみよう」とする姿が見られた。「つるの鳴き声皆に聞いてもらいたい」や、「アルパカの赤ちゃん知ってる?」「夏の毛が面白いんだよ」等、図鑑では見られない物も調べることができ、それを友達に伝えて知識を共有し、周りの子も「じゃあこれは?」と、次々に話題が広がっていくことで興味関心が広がっていった。

また、自分のイメージするものが出てこずにいたものも、クリスマスのベルの形や、折り紙の折り方など参考にする姿もみられた。1月に遊園地遊びを行った際には「こういうものが作りたい」とイメージを写真や絵で共有することができ、グループ活動でのヒントにもなった。

・泥山

今年度は1学期に思い切り泥遊びを行い、また2学期以降は集団遊び（ドッジボール、氷鬼など）に移行していったため泥山での遊びを行う子が少なかった。しかし、今までとは違う土だと言う事には気がつき、ネットした感触を楽しんだり、水をつけてつやつやにしたりし、土の種類について調べてみようとなった。しかし、10, 11月に小学校受験で欠席が多くその後活動が発展するまでにならずクリスマスの活動へと移行してしまった。

今年度2学期からの導入だったが、1学期には泥遊びや野菜を育てて収穫したり、草木の種や実で遊んだり、虫を飼うことなど行っていた為、1学期からタブレットがあればさらに知的好奇心が刺激され活動が広がったと考えます。今年度の1学期からの子どもの様子を振り返ると、虫や木の実を写真に撮って調べてみようや、泥山の土と他の土の違いを調べてみることや、粘土質の土で泥だんごを作ってみようなどの子どもの姿が予想されます。